

令和8年度 第1回静岡市中小企業・小規模企業応援会議 議事録

開催日時	令和8年6月26日（金） 14：00 ～ 15：30
開催場所	静岡市役所清水庁舎 4階 応接室
出席委員 ※五十音順	青山達弘 委員、伊藤晃 委員、小川剛 委員、押尾昌俊 委員、 音成秀樹 委員、風間禎之 委員、榊原孝夫 委員、鈴木達仁 副座長、 竹内佑騎 座長、辻田敬介 委員、手塚光里 委員、深沢麻衣子 委員、 八木邦明 委員（13名）
欠席委員 ※五十音順	中野真吾 委員（1名）
静岡市出席者 （事務局）	宮城島課長、皆川係長、藪主査、鍋田主任主事、前川民間交流員
1 開会 ・ 開会に当たって、以下2点について報告と確認を行った。 （1）委員の出欠席状況について 委員の過半数が出席していることを報告した。 （2）議事録の作成について 議事録を作成するために録音することについて委員から了承を得た。 2 竹内座長 挨拶 ・ 竹内座長挨拶 3 自己紹介 ・ 新たに就任された辻田委員より事業の紹介 4 静岡市からの情報提供 （1）令和6年度第2回応援会議にて各委員からいただいた主なご意見とその対応状況について （2）市内経済の状況について （3）第4次静岡市産業振興プランについて 【宮城島課長】資料1、2、3-1～3-6を用いて説明 （4）意見交換 【竹内座長】 ・ それでは、ここから意見交換に入りたいと思います。特に資料3-3について、皆様からご意見をいただきたいと思います。この会議は、現場の意見を市の施策に反映することを目的としています。そのため、この場で正解を作ったり一つの結論をまとめたりする必要はありません。 「私はこういうことに困っている」「私はこう考えている」といった、リアルな声をお聞かせいただければと思います。 ・ 資料を見て分かるように、静岡市には多くの支援機関があります。一方で、これだけ多くの支援機関がある中で、事業者の皆さんに十分活用されているのか、必要としている方にきちんと届いているのかという点もあると思います。また、今日は支援機関の皆様にもご参加いただいていますので、支援する立場から見た現状や課題、現場で感じていることなども含めてお話しいただければと思います。さらに、「こうした形で支援体制が充実するとよい」といったご意見や、現場で工夫されていることなどもありましたら、ぜひお聞かせください。	

まずは、実際に支援機関を利用されている方はいらっしゃいますか。

【辻田委員】

私自身、スタートアップとして会社を立ち上げた3年半前から、B-nest（静岡市産学交流センター）をコ・クリエーションスペース、SHIPを中心に利用させていただいておりました。特に、B-nestはいつも丁寧にサポートしていただいております、困ったことがあれば相談できるので、とても頼りになる存在です。一方で、市町を挟んでも支援機関同士の横の連携が上手く取れたらなと思っています。課題は共通している部分も多いと思いますので、それぞれの支援機関が連携しながら支援できる仕組みがあると、より利用しやすくなるのではないかと思います。

【深沢委員】

私は商工会議所を利用させていただいています。何か困ったときに専門家派遣制度を実施しているところが多くて、正直どこをどう使ったらいいか悩むというところがあります。利用者側も制度自体を十分に知らないことがありますし、何かを相談したい時、入口はどこに相談すればよいかわかりにくいのかもしれません。

【青山委員】

商工会議所の振興委員をやらせてもらっています。自分自身関わらせてもらっている割には、どうことができるのか、あまりわかっていないということがあるのかもしれません。

【竹内座長】

ありがとうございます。それでは、支援機関のお立場からいかがでしょうか。

【音成委員】

・「どこへ相談すればよいかわからない」という場合は、まずは、B-nestに相談に来ていただければと思っています。ただ、B-nestの存在自体や、その中でどのような支援を行っているかが十分知られていないのも現状です。知人からも、「B-nestはどこにあるのですか」「何をしている施設なのですか」と聞かれることがあります。

・最近ではテレビや新聞を見ないという人も多い中で、どうやって周知していくか悩むところもあり、SNSなどを活用して情報発信には取り組んでいますが、まだまだ十分に浸透しているとは言えません。引き続き、認知度向上に努めていきたいと思っています。

【風間委員】

商工会議所には中小企業相談所があり、主に中小企業からの様々な相談に対応しています。資料では、よろず支援拠点や清水産業・情報プラザ、産学交流センターなどと連携していることが示されていますが、事業承継・引継ぎ支援センターについても実線でつながっている関係ですので、資料上も反映していただけるとよいと思います。

【手塚委員】

私は自動車部品工業の適正取引ワーキングに入っていますが、その中で、取引適正化のマニュアルや手順書を整えて、それをサプライチェーン全体に展開する事を推進しており、地域ごとのセミナーも行っています。セミナーに如何に集客させるかの取組みとして、例えば浜松では、浜松の商工会議所とタイアップして開催したところ、多くの参加があった旨の話がありました。今後、他の地域でもこうした連携を進めていこうという話になっています。中小企業に対し、価格転嫁の方法を教える支援が必要と考えます。

【竹内座長】

ありがとうございます。皆さんのお話を伺うと、「支援機関を知らない」ということだけではなく、「自分の悩みをどこへ相談すればよいのか分からない」ということが共通しているように感じま

す。施設や機関の名称だけではなく、「どのような課題を解決してもらえるのか」とか、それもわからなければ、総合窓口に行って連携している図が分かるとか、問題解決のフィールドがわかるようにする必要があるかもしれません。役割分担の中で、ここは大企業やスタートアップと連携できるとか、地域をもっと横展開し越境したつながりを持てるとか、まず1つ相互に知っていくということがあると思います。そして、その後どう知らしめていくかというところで、各支援機関同士が発信していると思うのでそれを横展開していくとか、事例ともに発信していくのが良いと思います。

【辻田委員】

私自身も専門家派遣制度について調べた際、それぞれの制度の違いが分かりませんでした。利用者目線で分かりやすく整理したウェブサイトやポータルサイトのようなものがあり、そこから必要な窓口につながる2段階の仕組みがあると利用しやすいと思います。

【押尾委員】

支援機関自体は、横の繋がりはかなり持っていると思います。いろいろな窓口を増やすことによって、どんな相談でも乗らせていただいて、相談を受けた上で、内容に応じて適切な機関へお繋ぎするようなハブやプラットフォーム的な動きはしています。まずは何でもいいので、気軽に相談いただくことが大切だと思いますので、どのようなことでも良いので、どこかに相談していただけたらと思います。PR 不足かもしれませんが、その役割を引き続き果たしていきたいと考えています。

5 意見交換（価格転嫁・適正取引・賃上げについて）

【鍋田主任主事】資料4、資料1（抜粋版）を用いて説明

【竹内座長】

重ねてですが、この場で意見を一つにまとめることが目的ではありません。「こういうことに困っている」「こういう工夫をしている」でも構いません。意見交換の中で、何か一つでも皆様に持って帰っていただきたいと思っておりますので、率直な意見を出していただければと思います。良かった事例、悩んでいること、ほかの人どうやっていますかでも構いませんので、自由にご発言ください。

【鈴木副座長】

・人手不足への対応として、社内でAIを活用しています。これまでも生成AIは利用していましたが、先週からAI エージェントを本格的に触り始めました。例えば見積書作成では、以前は人がひな形に入力していましたが、AI エージェントを使うと、実際にパソコンの中でファイルをいじりにいってくれて、見積書を作成してくれます。まるで隣に優秀な事務担当がいるような感覚です。今後は見積作成だけでなく、様々な事務作業をAIへ任せられる可能性があり、業務効率は大きく変わると感じています。人手不足への対応として、新しい技術を学び、積極的に取り入れていくことが重要だと思います。社員にも「まずは触ってみよう」と呼び掛けています。

・また、本日着用しておりますが、AIと連携できるスマートグラスも試しています。リアルタイム文字起こしやAIへの指示なども可能になってきており、技術の進歩を実感しています。今はHowTo系の動画もたくさんありますので、触ったことない方も怖がらずに、まずは触っていただければと思います。

【榊原委員】

・労福協という組合側から見た賃上げの現状についてですが、2026年の春闘賃上げというのは、賃上げ率5%台、3年連続で5%台の高水準となりました。例年よりわずかに軽減していますが、賃

上げの定着が見られた年になりました。一方で、中小企業では依然として大企業との差があり、原資の確保も課題となっています。

・そのような中、労福協では勤労者からの要望事項を踏まえて、静岡市へ、昨年9月に要望書を提出しております。勤労者の支援ということで、中小企業者や小規模事業者が単独で福利厚生制度を整備・運営するのは、なかなか難しいということを踏まえて、ジョイブの広報活動強化、制度の利用促進、サービス拡充に向けた予算の確保等を要望しております。静岡市からは、「補助金による財政的な支援を行うとともに、今後もセミナーや説明会などを通じて積極的に制度の周知を進めていきたい」と回答いただいていることを共有させていただきます。

【伊藤委員】

公共工事では労務単価は上がっていますが、発注額全体が増えているわけではありません。そのため、人件費が上がる一方で、業務管理費と一般管理費などを削らざるを得ない状況があります。本当は労務単価と併せて、発注側の単価をもっと上げてもらえばいいのですが、財政的なところではなかなか難しいところがあると思います。公共事業はアンバランスなところがあるかなと思います。

【小川委員】

商工会の経営指導員とも話していますが、融資の相談を聞いていると、建設業では、価格転嫁が進んでいる企業もある一方で、長年付き合いのある取引先にはなかなか値上げを言い出せず、赤字になっている企業もあります。最低賃金も毎年上がり従業員の賃金を上げないといけない中で、経営者が苦勞しながら、社長の役員報酬を削って、何とか給与を支払っているという声も多く聞いており、なかなか厳しいなと思っているところです。

【八木委員】

・教育の立場から考えると、企業が「人にお金をかける」ということは、賃上げだけを意味するものではなく、人材育成への投資も非常に重要だと考えています。

私は風呂桶モデルに例えて話をすることがありますが、組織には人材や知識、経験のインフローとアウトフローがあり、何もしなければ、それらの蓄積は少しずつ枯渇していきます。だからこそ、組織の中にある知識や経験のストックを、どのように維持し、さらに豊かにしていくのかという点に、私自身とても高い関心を持っています。

・一方で、人材育成に積極的に投資しても、育成した人材が退職してしまうというリスクもあります。そうした可能性も踏まえながら、静岡の企業が人材育成への投資をどのように捉え、どのような考え方で取り組んでいるのかについて、関心を持っています。

【鈴木副座長】

当社でも7月から社員教育の予算を増やす予定です。AI研修や自己啓発などにも投資し、会社だけでなく社員自身の人生にも役立つスキルを身につけてもらって、ともに成長していきたいと考えています。

【辻田委員】

・リスキリング補助金を活用している企業が増えていると思います。補助金を活用して社内に投資をして、個人のスキルアップというところで、福利厚生的な価値を感じてもらえているというところがあると思います。

・取引の部分でいうと、良好な関係を築くというところが、常に悩んでいるところです。小さい会社だと大手企業に相手してもらえないということもありまして、まずは実績をつかむというところに日々向き合っていて、取り組んでいます。人と人、というところで、売上を作るという商売でなくて、オフラインで会ったり共通のテーマで話し合ったりするこのような場はありがたいと思っています、

もっと増えたらなと思っています。

【八木委員】

ローカルで対面にて会うことの価値は、実際やっていますごく感じます。それを求めている社員の方も多いかなと思います。放課後タイムで会社から離れて行くという方は比較的いるのですが、意外と満足されていなくて、その場限りで終わってしまっています。会社として出て行くというところに、非常にメリットを感じてらっしゃる方が多いなという印象を持っています。

【竹内座長】

デジタルが進んでいるからこそ、バランスが重要で、顔が見える関係性でちゃんと伝えあうということが重要ということですね。

【深沢委員】

・価格転嫁に関しては、最近値上げが続いていることもあり、お客様にも価格改定を受け入れていただきやすくなってきた印象があります。

・一方で、賃上げの部分では、レベルアップに応じて給料を上げるということがある中で、従業員全体の給与水準も市場全体で上がっているため、プラスアルファをして差別化することが難しくなっています。

【手塚委員】

自動車業界では、価格転嫁については取引先へ積極的に働きかけをしているという実態です。労務費に関しても、経産省の指針に基づいてやらなければならないですし、エネルギー価格についても、請求書をもって差額を毎月払っています。公表されている指標に基づきルール化していますが、中東情勢の影響で半期のルールでは間に合わないで、四半期のルールにしてくれという企業もたくさんあります。中小企業に関しては、私たちの方から声掛けをして、お互いに確認できる公の数字でルール化をしてやっています。以前は値上げを言い出しにくい時代でしたが、現在は「上がるものは上がる」という認識が業界全体に広がっています。

【青山委員】

価格転嫁について、取引先に言いだしづらいというところで、自社でやっている介護住宅改修では、介護保険で20万円までは出ますが、1割は自己負担となっています。やり手がないのか、件数は多いですが、1件あたりの単価が高くないです。担当者を育ててやってきましたが、数字を追いかけてみると、やはり値上げをしないと合わないとなるのですが、担当者は「これまで築いてきた関係だから値上げは言えない」と悩んでいました。しかし、結果として、実際に価格改定をお願いしてみると、多くのお客様が理解してくださいました。思い込みで価格交渉を避けてしまっているケースもあるのではないかと感じています。

【深沢委員】

私の父はすごく苦勞してきてという中で、これがこれくらいの金額だろうということもあって、なかなか値上げ交渉が出来なかったりもします。私は案外、これは赤字だから、少し値上げしてくださいと言って、意外とすんなり受け入れられるということもあり、父が「よくそんな金額で決まったな」と、驚いている感じがあって、そういうこともあるのかもしれないですね。

【手塚委員】

上がるのが当たり前という感覚になってきていますよね。ホテルを使うと、1年前と料金が変わっているということがあって、人件費がといわれると「しょうがないなあ」となりますよね。だいたい経費は1年前をベースで予算立てをしていると、追加予算しないといけないという感覚があります。

【風間委員】

・商工会議所は、経営者の団体という側面もありまして、最低賃金について 1,500 円を目指さなくなったという報道もありましたが、日商は歓迎しており、急激な引き上げについては慎重な立場です。企業の成長に合わせて賃金を上げていくことが重要だと考えています。

・また、小川委員のところと一緒にやっている県の「経営力向上補助金」は先週、二次募集が終わりましたが、「パートナーシップ構築宣言」について加点項目があります。ですので、皆さま実施するのですが、中身が伴っていないということで、そこをなんとかしないという課題感があります。

・日本政策金融公庫の融資制度についても、賃上げ特例というのがありますが、金利上昇により利用が減少している状況があります。借りなくなると、企業は設備投資が控えられてしまうことも懸念しています。

【音成委員】

今の事業と直接は関係ありませんが、インフレの中で、減税とかばらまき給付とか話があります。これは、火に油を注ぐようなもので、現在の日本はインフレが加速する方向にあります。日本は国の借金が GDP の倍あると言いますが、30 年間賃上げや物価が上がらなかったのので、諸外国は 30 年間毎年 3 % くらい物価があがっていき、倍くらいになっています。日本も外国並みに物価が上がれば、国の借金は GDP とほとんど一緒になるということで、特に問題ないということで、今、国の借金が 1,100 兆円くらいありますが、家計の現預金が 1,100 兆円くらいあります。インフレが進むと、国の借金が実質目減りするので、インフレは収まらないです。企業も値上げをためらわず、適切に価格転嫁していくことが必要だと思います。業績が厳しいから賃上げできないというだけではなく、人材確保のためにも賃上げは避けられません。その原資は、最終的には価格転嫁によって確保していく必要があると考えています。

【押尾委員】

・価格転嫁交渉に団体協約を活用しようということで、事業協同組合が、取引先との間で、取引条件について団体交渉を行い、団体協約を結ぶという制度があります。交渉力を高めるためには、協同組合組織は有効ですので、またご承知おき頂ければと思います。

・ものづくり補助金等では賃上げが必須要件や加点になっているものもあります。人を雇わないように、設備投資によって省力化を進めたい企業にとって、賃上げが要件になってしまっているということで、矛盾を感じている部分もありますが、やはり補助金を得るためには賃上げをしていかななくてはならないというのが一般的になっているので、これからもそのような傾向が進んでいくのではないかなということだけお伝えしたいと思います。

【竹内座長】

本日は、様々なご意見ありがとうございました。生産性向上のための AI 活用とか我々のマインドセットを変えないといけないということもありますし、値上げをすることが悪い時代ではなくて、価格転嫁を言いだしにくい空気を変えていくことが、必要だと思います。そのために、このような顔を合わせて話す場が、実はより一層重要になっているということで、この場で共通認識ができると、皆さまでその一歩が踏み出せるということがわかって、非常により良い議論になったと思います。

6 閉会

【宮城島課長】

今日は本当にありがとうございました。価格交渉の話は、私どもが、皆さんお一人お一人から

話を聞いたりアンケートをしたりでは聞けないようなお話だったなと思っています。やはり、いろいろな立場の方が、いろいろな角度から、このような会議という形で集まって話し合いをすることで、本当の現場のリアリティがある状況が見えてくるなと思い、今日は良い会になったと思います。ぜひ今後も、このようなご意見いただいて、産業振興プランや私どもの施策に反映したりとかしていきたいと思います。どうぞよろしくお願いいたします。